

Ⅱ 進 学 編

進 学 編

令和6年度入試を振り返って

令和5年度 第3学年進路指導部 白 沢 充

① 大学入学共通テスト

志願者数 491,914人（前年比 20,667人減）

受験者数 457,608人（前年比 16,443人減）

大学入学共通テスト利用大学・短期大学数 864大学

[内訳] 国立大82、公立大95、私立大530、公立専門職大2、私立専門職大8、
公立短大13、私立短大134

平均点等

900点集計の最終予想平均点（データネット実行委員会〔駿台予備学校／ベネッセコーポレーション主催〕の推定）は、5－8文系が536点（得点率約50%）、5－7理系が559点（得点率約62%）となった。前年度との比較では、文系が4点の増、理系が8点の増となり、文系、理系ともに平均点が若干上昇した。科目別にみると、政治経済、数学ⅠA、リーディングなどで平均点が下降する一方、国語は前年から+11点、リスニング+4.9点、地理B+5.3点と平均点が上昇した。問題の傾向としては、昨年と同様に問題の分量や扱う資料の数が多く、適切に情報を読み取る力や、資料の内容を学習内容と関連付けて考察する力を要する問題が目立った。問題の難化や共通テストと私大の出題傾向が大きく異なることが要因となり、私大専願者が共通テストを回避する傾向がうかがえる。

令和6年度 大学入学共通テスト結果

科目(満点)	受験者数(人)	平均点(点)	標準偏差	前年度平均点(点)	前年度比較(点)
国 語 (200点)	433,173	116.50	35.33	105.74	+10.76
数 学Ⅰ・A (100点)	339,152	51.38	20.73	55.65	-4.27
数 学Ⅱ・B (100点)	312,255	57.74	20.67	61.48	-3.74
リーディング (100点)	449,328	51.54	19.94	53.81	-2.24
リスニング (100点)	447,519	67.24	17.12	62.35	4.89
世界史B (100点)	75,866	60.28	21.55	58.43	1.85
日本史B (100点)	131,309	56.27	16.88	59.75	-3.48
地 理 B (100点)	136,948	65.74	15.04	60.46	5.28
現代社会 (100点)	71,988	55.94	14.96	59.46	-3.52
物理基礎 (50点)	17,949	28.72	12.29	28.19	0.58
化学基礎 (50点)	92,894	27.31	10.75	29.42	-2.11
生物基礎 (50点)	115,318	31.57	9.22	24.66	6.91
地学基礎 (50点)	43,372	35.56	8.95	35.03	0.53
物 理 (100点)	142,525	62.97	22.82	63.39	-0.42
化 学 (100点)	180,779	54.77	20.95	54.01	0.76
生 物 (100点)	56,596	54.82	17.98	48.46	6.36

2 県内国公立大学の志願状況

① 秋田大学

・教育文化学部	前期	2.7倍 (前年 2.5倍)	後期	14.2倍 (前年 8.7倍)
・国際資源学部	前期	1.5倍 (前年 1.9倍)	後期	8.2倍 (前年 9.2倍)
・理工学部	前期	2.9倍 (前年 3.2倍)	後期	11.2倍 (前年 12.1倍)
・医学部	前期	4.7倍 (前年 3.5倍)	後期	22.5倍 (前年 17.9倍)

② 秋田県立大学

・システム科学技術学部	前期	4.2倍 (前年 1.9倍)	後期	18.1倍 (前年 12.6倍)
・生物資源科学部	前期	4.1倍 (前年 4.2倍)	後期	12.3倍 (前年 18.9倍)

③ 国際教養大学

・国際教養学部	A日程	5.7倍 (前年 6.0倍)	B日程	8.6倍 (前年 9.1倍)
	C日程	24.4倍 (前年28.4倍)		

④ 秋田公立美術大学

・美術学部	前期	2.5倍 (前年 2.6倍)	中期	5.6倍 (前年 6.3倍)
-------	----	----------------	----	----------------

3 本校の概況

令和6年度 大学入学共通テスト 本校の自己採点結果 (平均点等推移)

科目(満点)	受験者数	今年度平均点	最高点	今年度偏差値	前年度偏差値	前々年度偏差値
国語 (200点)	17	101.0	161	45.0	44.2	44.5
数学Ⅰ・A (100点)	11	30.5	67	39.0	41.3	38.6
数学Ⅱ・B (100点)	10	36.5	77	39.0	40.1	37.9
英語リーディング (100点)	17	41.2	70	44.0	41.1	40.9
英語リスニング (100点)	17	52.5	78	40.6	40.2	42.7
世界史B (100点)	2	47.0	47	43.0	40.5	43.7
日本史B (100点)	2	45.5	49	43.0	45.7	48.8
地理B (100点)	10	50.7	77	39.7	40.1	39.3
現代社会 (100点)	5	56.6	72	49.9	48.5	47.6
倫理 (100点)	—	—	—	—	—	—
政治経済 (100点)	2	52.0	62	54.4	43.4	49.8
倫理政経 (100点)	1	72.0	72	57.5	—	—
物理基礎 (50点)	5	25.4	34	46.5	55.4	40.8
化学基礎 (50点)	10	21.2	35	43.8	43.7	43.0
生物基礎 (50点)	7	30.4	40	48.4	43.0	45.9
地学基礎 (50点)	2	32.5	34	46.2	40.6	42.2
物理 (100点)	2	39.0	34	38.4	45.4	30.2
化学 (100点)	1	25.0	25	35.0	39.0	39.3
生物 (100点)	5	44.8	48	44.1	44.4	37.4
文系5-8合計	文3	文540.3	文542	文49.6	文39.8	文42.3
理系5-7合計	理8	理367.9	理491	理34.5	理37.3	理30.5

本校の国公立大学合格状況の推移（分子：入学者、分母：受験者延べ人数）

	総合型 選抜 (旧 AO)	学校推薦型 選抜 (共通テストなし)	学校推薦型 選抜 (共通テストあり)	一般	合計	卒業者数	共通テスト 出願者数
H27	1/6	4/14	6/9	5/38	16/67	198	88
H28	1/6	10/17	2/7	7/44	20/74	198	85
H29	3/7	9/22	1/8	3/43	16/80	195	91
H30	3/5	6/15	5/10	9/33	23/63	174	79
H31	4/8	4/10	3/5	1/22	12/45	174	72
R02	2/6	11/13	6/8	3/30	22/57	171	89
R03	2/6	5/8	0/6	1/8	8/28	164	51
R04	2/7	3/8	1/5	1/12	7/32	169	56
R05	7/15	2/4	3/10	5/15	17/44	167	49
R06	5/13	5/7	0/5	3/14	13/39	153	38

今年度の国公立大学の合格者数は13名で、合格者内訳は総合型選抜が5名、共通テスト無し学校推薦型選抜合格者が5名、共通テスト有り学校推薦型選抜が0名、一般選抜前期が3名、一般選抜後期が0名である。総合型の合格者は早期に進路志望を決定して課題研究に取り組み、充実した探究活動の成果を面接試験などで存分にアピールすることができていた。また、一般受験での合格者は、志望校合格に向けて、最後まで粘り強く取り組むことができた生徒たちである。本校生は進路志望が多岐にわたり、年内に進路を決定する生徒が多い。その中で努力を継続するのは大変であるが、安易に目標を下げることなく、強い覚悟を持って進路の諸活動に臨み自分の将来を切り開いて欲しい。

1. 進路決定に向けて

① 類型（教養・文系・理系）および科目の選択

(1) 本校での選択の流れ



高校入学後の進路選択の第一歩が類型選択である。

高校卒業後、すぐに民間就職を考えている場合は、教養クラスを選択しよう。

進学する場合は、高校での類型選択が将来就きたい職業に大きく関わってくるので慎重に判断しよう。

(2) 類型選択・進路選択の考え方

① 将来就きたい仕事から考える

類型・科目選択によって就職できる仕事の種類が、ある程度制限される場合がある。

例えば、医師を目指すのであれば理系を選択して医学部に進学する必要があるし、裁判官を目指すのであれば文系を選択し、法学部に進学、司法試験に合格しなくてはならない。エンジニアを目指したいのであれば、理系を選択した上で物理の科目を選択することが望ましい、などである。

「将来なりたい自分」を考えて、夢を実現するためにはどのような学問を学ばよいか、その学部に進むために必要な受験科目は何かを調べてみるのが、類型・科目選択の判断材料になる。

明確に志望する職業がない場合でも、どのような分野で働きたいという希望があれば、類型・科目選択の判断材料にすることは可能である。少しでも描いている将来像がある場合は、先生や家族に相談してみよう。

② 学びたい学問から考える

将来の職業や働くイメージができない人は、これからどんなことを学びたいのか考えてみよう。学びたいことがあれば、志望する学部学科を絞り込むことができ、学部学科が固まれば、入試に必要な科目などから類型・科目を選ぶことができる。

③ 興味・関心のあることから考える

例えば、パソコンを操作することや天体観測をすることが好きなら情報科学や天文学を学べる理系、小説を読むことや歴史に興味があるなら文学や歴史学を学べる文系、といったように好きなものから自分が何に関心を抱いているのかを見極めることができる。ちょっとしたことが学びたいと思える分野を見つけるきっかけとなる。

④ 単純なイメージだけで選ばず、しっかり調べよう

経済学や経営学・心理学など、文系の学問でも数学や統計等理系の知識が必要な学問がある。入試では必要ない場合でも、進学後に多かれ少なかれ数学を学ぶ機会があるのがほとんどである。また、「情報学部」などの学部は、文理融合系という性格から文系の科目だけで入試を受けられる大学もある。一方、理系の研究者が英語で論文を書くことも多い。学びたい分野や就きたい職業がある人は、イメージにとらわれず希望を叶えるために必要な科目をきっちりと調

べるようにしよう。

マナビジョン、スタディサプリ進路、日本版o-netなどでは、適職適学診断ができる。自分の適性を判断する手掛かりにしてみよう。

② 類型・科目選択と進学

高 校	文系	理系	
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語、国語、地歴公民の授業時数が多い ・世界史、日本史、地理を選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学、理科の授業時数が多い ・数学Ⅲ、化学の授業がある ・物理または生物を選択できる 	
大 学 ・ 短 大	文系学部	文理融合学部	理系学部
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・国語・地歴公民の科目が受験科目に含まれることが多い ・入学後に数学や統計学を学ぶ必要のある学部もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試科目は学部によってさまざま ・文系型、理系型で入試が分かれている場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学・理科の科目が受験科目に含まれることが多い ・入学後の論文執筆や研究発表で英語が必要になる場合がある
	文学部 社会学部 法学部 介護福祉学部 外国語学部 国際関係学部 総合学部	社会心理学部 情報学部 経済学部 生活科学部 教育学部 スポーツ科学部	工学部 理学部 理工学部 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 農学部

大学・短大の学部学科

文系の学部
人文学部系
主に、人類の創造した文化を対象として研究する学問。代表的な学びは、文学、語学、文化学、史学・地理学、哲学・宗教学、心理学など。それぞれの分野の対象となるものを学ぶとともに、それらを生み出す人間の精神的な部分や人間の存在そのものについても研究をしていく。
文学 語学 言語学 表現文化 文化学 図書館学 文化財学 考古学 史学 民俗学 地理学 歴史社会学 心理学 哲学 倫理学 宗教学 美学 人間科学
社会学系
社会現象を研究の対象とする学問。実証的な方法によって社会現象を分析し、その客観的法則を明らかにしていく。研究対象により、法学、政治学、経済学、経営学、商学・会計学、社会学、観光学、メディア学、社会福祉学などに分かれる。実学的な要素が強く、それぞれの分野での問題解決の手法なども探っていく。
社会学 情報学 新聞学 法学 政治学 政策科学 観光学 経済学 経営学 会計学 商学 流通学 貿易学 広報学 メディア学 人類学
社会福祉学系
すべての人々が人間らしく生きていくための手段を科学的に考え、実現のための手法やシステムを創造し、実社会で実施することによって問題解決を目指す。
社会福祉学 介護福祉学

文理融合の学部

教育学系

教育の本質・目的や制度、また教員になるための知識・技能などを学んでいく。教員免許を取得するにあたっては、実際の学校現場での教育実習も行う。なお、学校・学部によって取得できる教員免許は決まっており、卒業にあたり教員免許の取得が必須かどうか異なるので、事前に調べておくことが重要。

教育学 社会教育学 児童教育学 教員養成 体育学 社会体育学

芸術学系

理論と実技の両面から学習を進めていく、創作に欠かせない感性を磨いていく。伝統的な技法はもちろんデジタル面での学習も進んでいる。理論系、実技系に大別される。

美術 デザイン学 工芸 文化財修理 まんが・アニメーション CG・Webデザイン 写真
建築・インテリア 音楽 放送 音響 映画・映像 演劇・舞台 美容 メイク エステ ネイル

生活科学・家政学系

衣・食・住を中心に日常生活についてさまざまな角度から研究する。近年は環境学、福祉学などの隣接諸科学や文化学との融合も進んでいる。

生活科学 被服学 栄養学 食物学 住居学 児童学

教養・総合科学系

人間科学、社会科学、自然科学、健康科学、芸術学などを総合的に学ぶ。学科目を決めずに幅広く学び、広い視野と豊かな創造性を育てていく。

教養学 国際教養学 国際関係学 人間科学 人間環境学 総合科学

体育学系

体育指導者の養成とスポーツを学問的に研究するという二つの大きな流れがある。最大の特徴は、実務能力の向上を目指すため、数多くの実技科目が履修できる点にある。

環境学系

自然科学、社会科学、人文科学が複雑にクロスオーバーするのが特徴で、社会学、気候学、生態学、都市工学、土壌学等の学習を行い、複合的視点から環境問題に取り組む。

学際・総合科学系

一つのテーマに対して、あらゆる側面からアプローチして、総合的に考察して問題解決を図る現代的な学問領域。

国際関係学系

歴史学、政治学、経済学などを踏まえ、国際的な社会問題を総合的に分析し、対処法を模索していく。外国語の習得も重要なテーマの一つ。

理系の学部

理学系

さまざまな自然現象を研究対象に、実験や計算等を通して真理を解明していく。卒業後は理数科の教員のほか、研究機関での活躍も珍しくはない。

数学 物理学 化学 生物学 天文学 地学 広域理学

工学系

理学で得られた研究成果をベースに、これを人間の生活に有用な形へと実体化していく。産業界の期待は大きく、新技術、新製品の担い手たり得る実力養成が図られる。

機械工学 自動車工学 電気・電子工学 情報工学 建築学、土木工学 原子力工学
資源工学 材料工学 応用物理学 応用化学 経営・管理工学 航空・宇宙工学 船舶工学 海洋工学 商船学 生物工学・バイオテクノロジー 画像工学・光工学・医用工学

農学・食品科学系

安全な食の効率的な運用手段等を追求していくために、遺伝、育種、栽培、土壌などの基礎研究も行い知識を深めていく。肉・米・野菜・穀物など食物全般を研究する。

農学 農芸化学 農業工学 農業経済学 森林科学 造園学 畜産学 食品化学 水産学

看護学・保健学・医療技術系

高度な医療知識を吸収し、理論と臨床技術を学びながら、最終的には各種の国家資格取得を目指す。将来の職種に関連した学科や専攻・コースを選択する必要がある。

看護学 保健学 衛生学 臨床検査学 診療放射線学 臨床工学 理学療法学 作業療法学
言語聴覚学 視機能療法学 鍼灸学 柔道整復学 救急救命学

医療経営学系

医療あるいは福祉関連機関の財務などの情報科学的分析・評価法・活用法や医療スタッフが最大限に能力を発揮するための運営管理技術などを学んでいく。

医療経営 医療情報学 医療秘書 医療事務

医学・歯学系

人間の生命と健康を守る保健系統の中で中心的な役割を果たせる人材を育成する。いずれも6年間の一貫教育で学びながら知識を深め、将来的には研究職と臨床職とに大別されていく。

薬学系

病気やケガを治すための医薬品の開発や研究など、人体と化学物質との関わりを追求する。化学や生物学、物理学などを基礎として、化粧品、農薬、食品添加物など、周辺領域まで幅広く学ぶ。

志望校や志望学部、関心のある分野が決まったら、学校案内を取り寄せ、オープンキャンパスに参加しよう。進学希望先によっては、ホームページでオンライン参加型の学校説明会も開催されている学校も多い。3年生で受験対策に集中できるように、1、2年生の内に是非参加しておこう。

第1志望の学校だけでなく、複数の学校を比較することで、それぞれの学校の特徴が分かってくる。学べること、研究室の内容、シラバス、取得できる資格、進路状況等を調べることは、志望理由書や面接の回答の内容を深めることにもつながるので、早い段階から取り組むことをお勧めする。

2. 入学試験制度

入試制度については、自分の受験戦略にも大きく関わってくることであり、正しく豊富な情報を集めておくことが重要である。入試制度の種類は大きく以下の3つに分類される。

① 総合型選抜 ② 学校推薦型選抜 ③ 一般選抜

それぞれの入試選抜方法の違いについて、簡潔にまとめたので参考にしてほしい。

現在の名称	旧名称	入試概要	現在の入試(選抜)内容	出願時期・入試時期	合格発表時期
総合型選抜	AO入試	学力の三要素に鑑みて学力だけでなく多様な能力を総合的に判断する	一次試験：書類選考 二次試験：面接、小論文などの形式が多い	出願が9月から 入試は9月～11月 (国公立では試験日が2月になる大学もある)	11月以降 遅くとも一般選抜より前に発表 (国公立では大学により異なるが二次試験よりは早く発表)
学校推薦型選抜	推薦入試	出身学校長の推薦が必要である	書類選考、面接、小論文の形式が多い 学力試験は、小論文・プレゼンテーション口頭試問・実技・各教科や科目のテストなど	おおむね11月以降に出願 入試は11月～12月中	12月以降 一般選抜前には発表のことが多い
一般選抜	一般入試	学力試験を受け、一定の点数以上を取り、入学許可人数以内に入れば合格	学力試験、小論文、調査書による判定 ただし最重要視されるのは当日の学力試験	共通テストは9月頃出願、各大学への出願は12月以降、入試は1月半ば以降	1月半ば～3月末 (4月初めになるケースもある)

① 総合型選抜

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法。志願者本人の記載する資料である「活動報告書」、「入学希望理由書」、「学修計画書」なども評価対象となる。

学力の具体的な評価方法には小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等や大学入学共通テストがある。なかには大学の模擬授業を受けたうえでレポートを書かせるような試験もある。

実施は9～11月が多く、学校推薦型選抜や一般選抜に先駆けて行われる。大学によっては翌年1月の共通テストを課す場合もあり、選考期間が長めなのも総合型選抜の特徴だ。

学校長の推薦が必要な学校推薦型選抜とは異なり、出願条件を満たせば出願できる総合型選抜は、選抜方法が多岐にわたり、大学ごとの特徴が出やすい入試方式だ。一定以上の学校の成績(評定)や英語資格、レポート提出や研究発表が求められることがあり、一般選抜より多くの対策が必要となる。そのため、受験したいなら早めに募集要項を確認して、出願条件や試験の内容を早めにチェックしよう。

② 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、「公募制（公募推薦）」と「指定校制（指定校推薦）」に大別され、どちらも大学が求める出願条件を満たし、高等学校長の推薦を得ることが必要である。公募制の場合、全国の高校から広く出願できるが、指定校制では大学が指定した高校の生徒だけに出席資格がある。ほとんどの私立大学が両方を採用している。なお、公募制については、総合型選抜に組み入れている大学もあるが、出願条件資格などは学校推薦型選抜のそれと変わらない。（近年、海外の大学からも推薦の依頼がきている。）

A 公募制

大学が求める出願条件を満たし、高等学校長の推薦があれば出願でき、全国の高校から広く出願することが可能である。既卒生（浪人生）の出願を可としている大学もある。

出願条件として成績基準が設けられることが多いが、スポーツや文化活動の成績が条件になることもある。募集要項で早めに調べることが大切である。

《こんな人にオススメ》

- 日々の勉強や定期試験に力を入れてきた
- 苦手科目が少なく、各科目の成績が平均的に高い
- スポーツや芸術分野で優れた実績がある
- 部活動や委員会活動、ボランティア活動に関心があり実際に携わっている

B 指定校制

大学が指定した高校の生徒にのみ出席資格があり、現役生、専願に限られる。推薦枠は少人数のため希望者が多い場合は校内選考が実施され、成績、課外活動実績、生活態度などで評価される。狭き門であるが、推薦枠を獲得すれば合格率はかなり高くなる。

《こんな人にオススメ》

- 苦手科目が少なく、定期試験に力を入れ、各科目の成績が平均的にかなり高い
- 日々の学校生活に積極的に取り組んでいる
- その学校に絶対合格したいという強い意志がある

学校推薦型選抜の推薦書においては本人の学習歴や活動歴を踏まえた『学力の3要素』（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」）に関する評価を記載し、大学が選抜課程でこれらを活用することが必須となった。

総合型選抜や学校推薦型選抜の枠は拡大しており、国公立でも増加傾向にある。その分一般選抜のみで大学受験に臨むというのは、一昔前に比べてさらにハードルが高いものになっているといえる。将来希望している進路に合った大学の学部に進みたいと希望するならば、できれば総合型選抜や学校推薦型も狙っておきたいところである。対策としては、次が挙げられる。

- 学校推薦型選抜の、各大学の入試情報を参考にする
- 日々の勉強をしっかりとやり高1から良い成績を取る
- 小論文対策をしっかりとる
- ボランティアなどの課外活動へ積極的に参加する

- 資格を取得する
- 欠席日数を増やさない

加えて、文部科学省は合格発表から大学入学までの間に大学での勉強に必要となる「入学前教育」も積極的に実施するように各大学に促している。今後は総合型選抜・学校推薦型選抜であっても、入学前の学力アップが必須である。

③ 一般選抜

国公立大学においては「大学入学共通テスト」と「個別学力試験（2次試験）」の合計点数で合否を判定する選抜方法である。2次試験は筆記試験に加え、調査書や志願者本人が記載する資料等（例：エッセイ プレゼンテーション、各種大会や顕彰等の記録、総合的な学習の時間など）における生徒の探究的な学習の成果等に関する資料や面談など）が積極的に活用される。私立大学は各大学に複数の選抜方法がある。

大学側は各大学の入学者受入れの方針に基づき、調査書や志願者本人の記載する資料等をどのように活用するのかについて、各大学の募集要項等に明記されている。

A 国公立大学

国公立大学を受験するには一部の総合型選抜、学校推薦型選抜を除き大学入学共通テストを受験しなければならない。

B 私立大学・短期大学について

私立大学・短期大学の一般選抜は、1月下旬～2月中旬（一部は3月中旬まで）の期間で各大学が個別試験を実施する。これは入学に必要な基礎学力を測る試験で、大学入学共通テストの受験は不要である。また、全大学で統一の日程が設けられているわけではないため、試験日が重ならないければ何校でも受験できる。さらに同じ学部学科でも複数の入試方式がある「複線入試」を採用している場合がほとんどである。大学入学共通テストとの違いは、一般選抜では大学の独自試験のみを受験するが、大学入学共通テストは、その成績のみで合否が決まる（大学入学共通テストと個別試験とを総合して判断する場合もある）。ほとんどの大学で、一般選抜と大学入学共通テストの両方を併願することが可能である。

受験の型で最もベーシックなのは3教科型入試である。試験科目は大学・学部学科により異なるが、文系では英語、国語、地歴・公民や数学から1科目選択、理系では英語、数学、理科が課されるのが主流である。試験内容は正しい知識を問う選択式のほか、論述式、小論文を課す大学もある。1～2教科の場合もあるが、科目数が少なくなると高倍率になる傾向があるので注意が必要である。配点は大学・学部学科によって異なり、出題はマークシート方式と記述方式の両方がある。

一般選抜では、3教科型の他にも多様な入試方式が存在する。1つの学部学科で科目や日程、会場、採点基準が異なる2つ以上の入試を設けている場合も多くなっている。

例えば、日程が選べる「全学部統一入試（全学部日程）」や「試験日自由選択制度」を利用すれば、他校や同じ大学の他の学部学科との併願がしやすくなる。また、特定の科目が得意な人は

「科目選択型」「得意科目重視型」入試を選べば有利に運ぶ場合がある。その他に、地方で受験できる「地方入試（地方会場、学外試験会場）」や、万が一不合格だった場合に再チャレンジできる「後期日程（3月入試、2次募集）」などもある。また学力試験の他に、小論文試験を課す場合や、簿記など特定の資格を持っている人、TOEIC（R）などで一定のスコアを保持している人に加点する方式を実施している大学もある。

□受験のチャンスが増える「全学部統一入試（全学部日程）」

全学部が共通問題を用いて同じ日に試験を行う入試である。これに対し、学部学科ごとに問題や日程が違う試験を「個別学部入試（個別学部日程）」という。（大学によって異なる）

＜メリット＞

- 併願校と試験日が重なった時に利用できる
- 志望する学部学科への受験機会が増える
- 全学部を一斉に受験できる場合もあり、受験料や労力の負担を減らせる

□自分の得意科目を生かす「科目選択型」「得意科目重視型」

「科目選択型」は、科目の数や種類を選ぶことができるタイプ。「得意科目重視型」は事前に申請した科目の配点を高くする方式である。大学によっては合計点ではなく高得点の科目のみで合格判定を行う場合がある。合格の可能性が増える一方、その科目に自信のある受験生が集まるため高倍率になる傾向がある。

＜メリット＞

- 得意科目の得点で勝負できる

□併願がしやすい「試験日自由選択制度」

1つの学部学科で複数の試験日があり、都合の良い日を選んで受験できる方式で、2～3日の連続した試験日から1日選べるのがほとんどである。併願校と試験日が重なった場合に便利だけでなく、1つの大学内の学部学科を連日受験できる場合（出題される問題は日によって異なる）や、同学部内で違う学科を受験できる場合もある。また、複数日受験する場合、受験料が減額されるケースもあるのでチェックしておく必要がある。

＜メリット＞

- 他校と試験日が重なった場合に併願しやすい
- 全日同じ学部学科を受けられる場合もある

□地元で受験できる「地方入試（地方会場、学外試験会場）」

大学所在地以外に、全国の主要都市に設けられた試験会場で受験できる大学も多数ある。交通費や宿泊費の負担だけでなく、時間的・体力的負担も軽減できる。また、大学所在地での試験とは別日程で行われ、併願が可能なケースもある。一部の大学は全学部統一入試を地方会場で行っているため、これも活用したいところである。地方会場受験は先着順の場合もあるので、早めに確認しておく必要がある。

＜メリット＞

- お金と時間を効率的に使える

○大学所在地での試験と併願できる場合もある

□志望校へのラストチャンスを生かす「後期日程（3月入試、2次募集）」

2月下旬～3月中旬にかけて行われるのが後期試験、あるいは3月入試、2次募集と呼ばれる試験で、志望校への最終チャレンジである。ただし募集人員が少なく高倍率になる傾向がある。

《メリット》

○最後まで諦めないことで大きな達成感が得られる

○最後まで学力の伸びが期待できる

志望校を決める前の注意点として、1～2教科型があるからといって、早くから教科を絞ってしまうのは危険である。科目が少ないほど倍率やレベルが上がる傾向があり、募集人員の比率も基本の3教科型が高い大学がほとんどで、選択肢を自分で狭めてしまわないよう気をつけること。

複数の大学を受験する場合、試験日が重なってしまうことがあるため試験日程と会場の確認が必要である。科目数、配点比率、合格基準点、募集人員、昨年合格者数などもチェックすること。

2025年度入試 スケジュール

2023年10月現在

	国公立大学		私立大学 短期大学
	分離・分割方式	中期日程（公立大学のみ）	
2024年			
7月	選抜要項（日程・定員・出題科目・時間・配点など）発表		
9月	大学入学共通テスト 受験案内配付		総合型選抜
	大学入学共通テスト 検定料等払込		
10月	大学入学共通テスト 出願		
11月			学校推薦型選抜
12月	募集要項発表		
2025年			
1月	1月18・19日	大学入学共通テスト（本試験）	出願
		大学入学共通テスト 正解等の発表	
		大学入学共通テスト 平均点等の中間発表	
	～24日	学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課さない場合）結果発表	
		大学入学共通テスト 得点調整実施の有無の発表	
	25・26日	大学入学共通テスト（追試験・再試験）	
	27日～2月5日	2次（個別）試験 出願	一般選抜（2月）
2月		大学入学共通テスト 平均点等の最終発表	
	～12日	学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す場合）・総合型選抜結果発表	合格発表・入学手続
	～12日	第1段階選抜の結果発表（前期）	
	～19日	学校推薦型選抜・総合型選抜合格者の入学手続	
	25日～	前期日程試験	
	～28日	第1段階選抜の結果発表（後期）	一般選抜（3月）
3月	3月1日～10日 （国立は6日～）	合格発表	
	12日～	後期日程試験	
	～15日	入学手続	
	20日～24日	合格発表	
	～27日	入学手続	
	28日～	追加合格者発表 欠員補充第2次募集 出願・試験	
	～31日	入学手続（第2次締切）	
4月		大学入学共通テスト 成績の本人開示	

※国公立大学の実施日程は、上記日程と一部異なる場合があります。詳細は各大学の募集要項等で確認してください。

※私立大学・短期大学の出願期日・試験日・合格発表日等は各大学で設定されています。

※私立大学の総合型選抜は9月1日以降、年間を通じて実施されています。詳細は各大学の募集要項等で確認してください。

(備考) 『 』は大学入学共通テストにおける出題科目を表し、「 」は高等学校学習指導要領上設定されている科目を表す。

また、『地理総合/歴史総合/公共』や『物理基礎/化学基礎/地学基礎』にある“/”は、一つの出題科目の中で複数の出題範囲を選択解答することを表す。

(注1) 『国語』の分野別の大問数及び配点は、近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点(古文・漢文各45点)とする。

(注2) 地理歴史及び公民で2科目を選択する受験者が、(b)のうちから1科目及び(a)を選択する場合において、選択可能な組合せは以下のとおり。

- ・ (b)のうちから『地理総合、地理探究』を選択する場合、(a)では「歴史総合」及び「公共」の組合せ
- ・ (b)のうちから『歴史総合、日本史探究』又は『歴史総合、世界史探究』を選択する場合、(a)では「地理総合」及び「公共」の組合せ
- ・ (b)のうちから『公共、倫理』又は『公共、政治・経済』を選択する場合、(a)では「地理総合」及び「歴史総合」の組合せ

[参考] 地理歴史及び公民において (b)のうちから1科目及び(a)を選択する場合に選択可能な組合せについて

○：選択可能 ×：選択不可

		(a)		
		「地理総合」 「歴史総合」	「地理総合」 「公共」	「歴史総合」 「公共」
(b)	『地理総合、地理探究』	×	×	○
	『歴史総合、日本史探究』	×	○	×
	『歴史総合、世界史探究』	×	○	×
	『公共、倫理』	○	×	×
	『公共、政治・経済』	○	×	×

(注3) 地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

(注4) 【リスニング】は、音声問題を用い30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

なお、『英語』以外の外国語を受験した場合、【リスニング】を受験することはできない。

3. 文部科学省以外の省庁所管の学校

原則として大学・短大は文部科学省の管轄にある。これに対して、文部科学省以外の各省庁が特別技能者の養成を目的として設置している学校がある。公務員として採用された者が入学し、学費が不要の他、在学中も給料がもらえるものは、卒業後の就職の心配もないので、人気も高く競争率も高い。それだけ教育内容も厳しくレベルも高い。

◇公務員として採用された者が入学するもの

受験を考えている場合は「Ⅲ 就職編 5. 公務員試験について」も読むこと。

名 称	所管省庁 (所在地)	目 的
防 衛 大 学 校	防 衛 省 (横須賀市)	陸・海・空各自衛隊の幹部自衛官の養成
防衛医科大学校	防 衛 省 (所 沢 市)	医師国家試験合格と同時に二等陸海空尉となり9年間自衛隊に勤務する義務がある
海上保安大学校	海上保安庁 (呉 市)	海上保安庁の幹部職員養成
海上保安学校	海上保安庁 (京 都 府)	海上保安官の養成
航空保安大学校	国土交通省 (大 田 区)	管制・通信・航空保安・無線施設保安運用にあたる航空保安職員の養成
気 象 大 学 校	気 象 庁 (柏 市)	気象庁職員として指導力を有する人材の養成

◇その他の文部科学省以外の省庁所管の学校

下の表の他にも文部科学省以外の省庁所管の学校がある。学費は国公立大学と同額かそれ以下である。日本学生支援機構の奨学金の対象外の場合が多いが、「技能者育成資金」制度や学校独自の制度が用意されている。

名 称	所管省庁 (所在地)	目 的	学 費
水 産 大 学 校	農林水産省 (下関市)	将来の水産界を担う人材の養成	入学料 282,000円 授業料 年額535,800円
国立看護大学校	厚生労働省 (清瀬市)	国立高度専門医療センターの職員になろうとする看護師・助産師の養成	入学料 282,000円 授業料 年額535,800円
職業能力開発総合大学校	厚生労働省 (小平市)	高度の科学、技術教育と 大学校特に実際に物をつくる技術訓練を主体とした職業訓練指導員の養成	入学料 282,000円 授業料 年額535,800円
東北職業能力開発大学校	厚生労働省 (栗原市)	高度な知識と技能・技術を兼ね備えた人材や将来の生産技術、生産管理部門のリーダーとなり得る人材を育成	入学料 169,200円 授業料 年額390,000円
秋田職業能力開発短期大学校	厚生労働省 (大館市)	専門知識と高度な技能・技術を持つ、ものづくりのプロとなる実践技能者を育成	入学料 169,200円 授業料 年額390,000円
秋 田 県 立 秋田技術専門校	厚生労働省 (秋田市)	産業界が求める実践的な技術者・技能者を育成	入学金なし 授業料 年額118,800円
国立宮古海上技術短期大学校	国土交通省 (宮古市)	航海士、機関士の養成	入学料 60,000円 授業料 年額166,800円

※参考 国立大学の入学料 282,000円 授業料 年額 535,800円

4. 専門学校について

○専門学校とは

「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図る」ことを目的とする学校を専修学校といい、専修学校のうち入学資格が高等学校卒業者等のものを専門学校という。社会のニーズに対応した多種多様な学科があり、将来の職業で必要となる実践的な教育が行われている。理論を学ぶことを重視する大学と比べ、教育内容は社会に出てすぐに役立つ専門的な知識や技術の習得を中心としており、授業のうち実験や実習の割合が高い学科が多いことも特徴である。

専門学校では、職業に就くために必要な資格を取得することができる。資格にも様々な種類があるので、なりたい職業ややりたいことなど具体的な目標がある場合、どんな資格が必要か、どうやったらその資格が取得できるか勉強しておくことも大切なことである。

専門学校のうち、企業と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定している。

学科によって1年制から4年制までいろいろなコースがある。また、学習内容に応じて、就職や進学などさまざまな進路を選ぶことができる。修業年限が2年以上などの要件を満たした専門学校の修了者は大学への編入学が可能な場合もある。ただし、編入できる年次や認定される単位数など編入学に関することは各大学で定めている。

○専門学校入試（入学試験）について

主に一般選抜・学校推薦型選抜・総合型選抜となっている。

□一般入試（一般選抜）

書類選考・学科試験・面接試験の3つが課されることが多くある。特に医療関係分野の学校では、生物や化学が学科試験の出題範囲に含まれる。また、保育を学ぶ学校ではピアノ、建築や美術系の学校ではデッサンなど、入学後に学ぶ内容によって実技試験がある場合もある。

□AO入試（総合型選抜）

受験生が学校の求める学生像（アドミッション・ポリシー）に合っているかどうかを基準に合否を判定するものである。志願者一人ひとりの個性や意欲を判定するため、書類審査や論文などに加え、面接で合否を決める。志望動機や入学後の目標が問われ、学校での学びに対する意欲や、将来の可能性までじっくりと見極められる。オープンキャンパスへの参加が義務づけられているものや出願前にエントリーが必要な場合もあるので、事前に日程を調べておこう。エントリーを考えている場合は、必ず担任に相談しよう。

□推薦入試（学校推薦型選抜）

多くの専門学校が実施している学校推薦型選抜。単純に学力を試験するだけでなく、志願者の人となりや能力、意欲などが評価される。学校推薦型選抜では、書類審査に加え、面接や小論文、実技試験などを通して合否が判定される。取得資格や部活動など、高校時代の経験や実績が重視される傾向にあり、面接でも取り組んできた活動に関して聞かれることが多い。

□その他

入試の種類としては、上記の3つの他、特待生入試や社会人入試といった試験もある。特待生入試では、成績や人柄が総合的に評価され、通過すれば学費の減免を受けることができる。入学金や授業料の全額もしくは一部免除など、減免の内容は学校によって異なっているので、利用す

る際は確認が必要である。

○専門学校 の 8 分野 と 教育 内容

	工業分野	農業分野	医療分野	衛生分野
主な学科	情報処理、土木・建築、電気・電子、自動車整備、ゲーム・CGなど	農業、園芸、畜産、バイオテクノロジー、ガーデンビジネス、フラワービジネス、動物管理など	看護、歯科衛生、歯科技工、臨床検査、診療放射線、柔道整復、理学・作業療法など	調理、栄養、理容・美容、製菓・製パン、メイク、エステティックなど
特色	目覚ましく進展している機械、通信等の工業技術に対応できる人材を育成している分野です。どの学科でも最新の教育が行われています。	農業・畜産関係だけでなく、進歩するバイオテクノ商品流通等に関連した科目が充実した分野です。	看護師をはじめとする様々な医療現場で働く技術者を養成する分野です。医療分野では国家資格を必要とする職業がほとんどです。	飲食・調理関係と、理容美容関係に大別される分野です。どちらも卒業生のほとんどが、関連した職業についています。
目指す職業	システムエンジニア、ゲームクリエイター、建築士、電気工事士、自動車整備士、インテリアプランナーなど	ガーデナー、園芸技術者、フラワーデザイナー、食品安全管理スタッフなど	看護師、歯科衛生士、歯科技工士、臨床検査技師、診療放射線技師、柔道整復師、理学療法士、作業療法士など	調理師、栄養士、理容師、美容師、パティシエ、食品衛生管理者、メイクアップアーティスト、エステティシャンなど

	教育・社会福祉分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野
主な学科	保育、幼児教育、社会福祉、介護福祉、医療福祉など	経理・簿記、秘書、経営、情報、観光・ホテル、医療事務など	和洋裁、服飾、ファッションデザイン、ファッションビジネスなど	音楽、美術、グラフィックデザイン、外国語、演劇・映画、通訳・翻訳、動物、法律行政、スポーツなど
特色	教育現場や社会福祉における専門的な技術・知識を修得するとともに、責任感や豊かな心を育むことを目指しています。	ビジネスのプロフェッショナルを養成している分野はどの企業においても活躍の場があります。	ファッション業界の担い手を養成する分野です。感性を磨くとともに、それを実現する高度で正確な技術を身につけることを目指しています。	語学関係、芸術関係などバラエティに富んだ分野です。時代の流れを先取りした学科が、続々誕生しています。
目指す職業	保育士、幼稚園教諭、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、訪問介護員（ホームヘルパー）など	税理士、公認会計士、秘書、旅行業、ホテルスタッフ、医療事務員など	ファッションデザイナー、パタンナー、スタイリスト、ファッションアドバイザー、マーチャンダイザーなど	デザイナー、通訳、トリマー、公務員、司法書士、行政書士、スポーツインストラクターなど

○専門学校と資格取得

専門学校を卒業するところにより、下記のような「国家資格」あるいは「国家試験の受験資格」を得ることができる。

①卒業と同時に資格を取得

分野	資格名	入学資格	修業年限	認定者
工業	測量士補	高卒	1年以上	国土交通大臣
	第2種電気工事士※	高卒	1年以上	経済産業大臣
衛生	栄養士	高卒	2年以上	都道府県知事
	調理師	中卒	1年以上	
教育・社会福祉	保育士	高卒	2年以上	厚生労働大臣
	幼稚園教諭2種	高卒	2年以上	
	社会福祉主事任用資格	高卒	2年以上	

※ 学科によって筆記試験免除

②卒業と同時に受験資格を取得

分野	資格名	入学資格	修業年限	認定者
工業	建築士（2級・木造）	高卒	2年以上	都道府県知事
	自動車整備士（3級）	中卒	1年以上	国土交通大臣
	自動車整備士（2級）	高卒	2年以上	
	自動車整備士（1級）	2級取得者	2年以上	
	航空整備士（2等）	高卒	3年以上	
	航空運航整備士（2等）	高卒	3年以上	総務大臣
	消防設備士（甲種）	高卒	2年以上	
	危険物取扱者（甲種）	高卒	2年以上	
	技能検定（2級）	中卒又は高卒	課程により異なる	都道府県知事
医療	准看護師	中卒	2年	都道府県知事
	看護師	高卒	3年以上	厚生労働大臣
	保健師	看護師・若しくは看護師受験資格を有する者	1年以上	
	助産師		1年以上	
	診療放射線技師	高卒	3年以上	
	臨床検査技師	高卒	3年以上	
	臨床工学技士	高卒	3年以上	
	理学療法士	高卒	3年以上	
	作業療法士	高卒	3年以上	
	視能訓練士	高卒	3年以上	
	歯科衛生士	高卒	3年以上	
	歯科技工士	高卒	2年以上	
	義肢装具士	高卒	3年以上	
	臨床工学士	高卒	3年以上	
	はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師	高卒	3年以上	
	柔道整復師	高卒	3年以上	

分野	資格名	入学資格	修業年限	認定者
医療	言語聴覚士	高卒	3年以上	厚生労働大臣
	救急救命士	高卒	2年以上	
農業	愛玩動物看護師	高卒	3年以上	
衛生	製菓衛生師	中卒	1年以上	
	理容師	高卒	2年以上	
	美容師	高卒	2年以上	
教育社会福祉	介護福祉士	高卒	2年以上	
商業実務	社会保険労務士	高卒	2年以上	
	レストランサービス技能士(3級)	高卒	2年以上	
	税理士	高卒	2年以上	国税審議会会長
文化教養	学芸員	高卒	4年以上	文部科学大臣

③卒業後一定の実務経験で資格を取得

分野	資格名	入学資格	修業年限	認定者
工業	測量士	高卒	1年以上	国土交通大臣
	第2種電気主任技術者	高卒	2年以上	経済産業大臣
	第3種電気主任技術者	高卒	2年以上	

④卒業後一定の実務経験で受験資格を取得

分野	資格名	入学資格	修業年限	認定者
工業	2級土木施工管理技士	高卒	2年以上	国土交通大臣
	1級土木施工管理技士	高卒	2年以上	
	2級建築施工管理技士	高卒	2年以上	
	2級電気工事施工管理技士	高卒	2年以上	
	1級電気工事施工管理技士	高卒	2年以上	
	1級建築士	高卒	2年以上	
農業	2級造園施工管理技士	高卒	2年以上	厚生労働大臣
衛生	管理栄養士	高卒	2年	
			3年	
			4年	
教育・社会福祉	社会福祉士	高卒	2年以上	
	精神保健福祉士	高卒	2年以上	

上記以外にもさまざまな資格要件が定められている場合がある。

同じ資格を取得する場合でも、大学で学ぶルート、専門学校で学ぶルート、実務経験を経るルートなど、さまざまな取得方法がある場合もある。取得したい資格がある場合は、どのルートにどんなメリットがあるのかを調べ、自分にはどのルートが適しているのかを判断して受験計画を立てよう。

5. 高校3年間の学習成績について

ここでは、調査書等の書類審査でも重視される「全体の評定平均値」と「学習成績概評」について説明する。

(1) 全体の評定平均値

各科目の評定（成績）は5～1の5段階で評価する。1年次から3年次までの全科目の評定（3年次は仮評定）の平均値が「全体の評定平均値」となる。各学年の評定については、学年末に送付される成績通知票に記載される。

●「全体の評定平均値」の算出方法

科 目	1年	2年	3年
現代の国語	4		
言語文化	4		
論理国語		5	4
公 共	3		
数 学 I	4		
数 学 II		3	
体 育	4	3	4
保 健	4	4	
家 庭 基 礎	3		

$$\begin{aligned} & \text{「全体の評定平均値」} \\ & = (\text{全科目の評定の合計値}) \div (\text{全科目数}) \\ & = (4+4+5+4+3+4+3+4+3+4+4+4+3) \div 13 \\ & = 3.769\cdots \Rightarrow 3.8 \\ & ※小数第2位を四捨五入する \end{aligned}$$

(2) 学習成績概評

全体の評定平均値を5段階に分けて、A～Eの区分で表す。「成績段階」とも呼ばれる。具体的には総合型選抜や学校推薦型選抜の出願基準で「学習成績概評がB以上の者」等と示される。

評定平均値	5.0～4.3	4.2～3.5	3.4～2.7	2.6～1.9	1.8以下
学習成績概評	A	B	C	D	E

6. 進学にかかる経費について

上級学校で勉強するためには、相当の額の費用がかかるので、進学に先立って早めに資金計画を立てておく必要がある。以下に、「4年制大学の入学までにかかった費用」、「学校納付金（初年度）」の平均的な額を示す。

(1) 4年制大学の入学までにかかる費用（平均額）

奨学金は、原則として入学後に貸与（給付）されるものであるから、入学前に関する費用を充てることはできない。高校在学中から保護者とよく相談して計画的に準備していかなければならない。

また、入学後も相当額の生活費がかかるので注意したい。主な支出は家賃、光熱費、食費、交通費、通信費、交際費等である。

	国公立4年制		私立4年制	
	自宅生	下宿生	自宅生	下宿生
①出願をするためにかかった費用	114,800	122,300	159,100	138,400
②受験のための費用	47,500	102,000	55,100	96,700
③学校納付金 A 入学した大学	591,400	602,300	872,300	892,100
B 入学しなかった大学	265,400	264,000	285,200	298,000
④合格発表や入学手続きのための費用	12,300	50,500	13,200	48,100
⑤入学式出席のための費用	11,400	40,100	11,900	41,500
⑥パソコン・教科書・教材購入費用	238,100	260,400	200,200	222,100
⑦部屋探しの費用	0	228,000	0	276,700
⑧生活用品購入費用	92,300	308,000	80,900	299,600
⑨その他の費用	136,000	349,800	107,700	297,800
合計	1,362,300	2,061,900	1,676,200	2,340,000

※上記のデータは、2023年度保護者に聞く新入生調査〔大学生協〕による。

※「③学校納付金 A 入学した大学」は、入学金と前期授業料等を合わせた金額が目安となる。

(2) 学校納付金（初年度）

入学する年度に進学先に納入する費用として、入学金や授業料の他、施設設備費や実習費等の諸経費がある。〔1〕4年制大学に関して、国公立では入学金および授業料の標準額が定められており、原則どの大学も同じであるが、公立は入学者や保護者の住所（県内外、市内外等の区分）によって入学金が異なる場合もある。私立では大学、学部、学科毎に金額が異なるが、文低理高の傾向が強く、実習や実験、少人数指導のある学部系統は費用がかかることが分かる。また、〔2〕私立短期大学、〔3〕私立専門学校も初年度納付金は私立大学に匹敵する金額となっている。入学後在籍する予定年数（多くは2年ないし3年）を見越して、資金計画は早めに立ててほしい。

また、私立の進学先においては、令和4年度と比較すると入学金や授業料、諸経費で値上げが見られる学校も目立つ。物価高・人件費上昇の影響と考えられ、今後もこの傾向は続くと思われる。

〔1〕 4年制大学（国立は標準額、公立と私立は平均額 ※私立は初年度納付金の少ない順）

大学・学部等	入学金 (A)	授業料 (B)	初年度納付金 (A+B+諸経費)
国立大学	282,000	535,800	817,800
公立大学（地域内）	221,935	534,485	842,730
（地域外）	382,631	534,431	1,005,165
私立大学 ①法学部	218,115	795,373	1,261,508
②経済・経営・商学部	224,470	797,772	1,286,748
③外国語学部	225,759	794,288	1,310,090
④文学部	227,147	805,789	1,314,861
⑤社会・社会福祉学部	228,808	814,505	1,326,003
⑥人文・教養・人間科学部	226,652	836,456	1,332,961
⑦国際関係学部	223,220	834,705	1,337,296
⑧教育・教員養成系学部	232,727	812,318	1,368,755
⑨家政・生活科学部	236,143	810,295	1,399,200
⑩体育・健康科学部	238,930	846,369	1,423,964
⑪理学部	226,367	1,079,841	1,596,983
⑫工学部	231,934	1,095,138	1,635,332
⑬農・獣医畜産・水産学部	247,200	1,001,660	1,648,235
⑭芸術学部	234,018	1,036,607	1,652,452
⑮看護・医療・栄養学部	260,312	987,433	1,712,599
⑯薬学部	313,892	1,403,454	2,150,654
⑰歯学部	594,118	3,157,647	5,350,147
⑱医学部	1,346,774	2,683,710	7,115,267

※上記のデータは、旺文社教育情報センター（2023年9月29日）の記事による。

〔2〕 短期大学（平均額）

	入学金 (A)	授業料 (B)	初年度納付金 (A+B+諸経費)
私立短期大学	237,122	729,069	1,271,988

※上記のデータは、私立大学等の令和5年度入学者に係る学生納付金等調査〔文部科学省〕による。

〔3〕 専門学校（平均額）

	入学金 (A)	授業料 (B)	初年度納付金 (A+B+諸経費)
私立専門学校（東京都内）	177,000	709,000	1,279,000

※上記のデータは、令和4年度公益社団法人東京都専修学校各種学校協会調査データによる。

7. 家計の負担を軽減するための奨学金制度等について

(1) 日本学生支援機構

国が運営している奨学金制度。原則として返還不要の給付奨学金と、返還の必要がある貸与奨学金がある。奨学金の額は、進学先や通学形態（自宅・自宅外）など様々な条件で異なる。高校在学中に予約申込みが可能である。

奨学金の種類		返還の必要性	利子	振込頻度
給付奨学金		返還不要	－	毎月1回
貸与奨学金	第一種奨学金	返還が必要	利子なし	毎月1回
	第二種奨学金		利子あり	毎月1回
	入学時特別増額貸与奨学金			初回振込時に1回限り

それぞれ学力・家計（収入および資産）の基準を満たす人が対象になる。日本学生支援機構のホームページの「進学資金シミュレーター」を使えば、どの奨学金の対象になるかシミュレーションできる。「奨学金貸与・返還シミュレーション」を使えば、奨学金の種類、貸与月額、利率などさまざまな条件で、将来の返還額や返還回数をシミュレーションすることができる。申込みの前に必ず試算してから資金計画を立てること。

「日本学生支援機構ホームページ」<https://www.jasso.go.jp/>

(2) 進学先独自の奨学金

私立大学の多くで実施。返還不要の「給付・減免型」と、卒業後に返還を行う「貸与型」がある。学校によっては「特待生」「奨学生」「スカラシップ」等の名称で実施されている。主に入試成績や入学後の成績で選考される。詳細は、進学先の学校案内や募集要項等で確認すること。

国公立大学にも、授業料免除の制度がある。（公立大学は一般的に条件が厳しいことが多い）

(3) 地方自治体の奨学金

都道府県や市町村等の地方自治体で実施。日本学生支援機構との併用ができない場合もあるので、申し込みの際には確認が必要。（例：秋田県育英会貸与型奨学金）

看護師・介護福祉士・社会福祉士などの特定資格の要請を希望する学生を対象にした奨学金制度や、秋田県の奨学金返還助成制度（進学先卒業後に秋田県内の企業へ就職する場合）もある。

(4) 民間育英団体の奨学金

企業や個人が財団等を設立して実施。（例：あしなが育英会）

(5) 寮の利用

大学等が寮を設置している場合があるので、利用希望者は各進学先に問い合わせる。秋田県育英会の学生寮に、東京寮（男子寮）とビューリー千秋（女子寮）がある。秋田県出身者が申し込みできる。

(6) 国の教育ローン

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）の国民生活事業の一環。奨学金とは違い、保護者が貸付

を受け、返済する。一般的な銀行に比べて利息が安く、各種の優遇措置もある。過去6か月以上の公共料金（電気、水道、家賃等）の支払い状況等の審査があるので、領収証等をあらかじめ保管しておく必要がある。

8. 働きながら進学する方法

(1) 夜間制の学校（「二部」「夜間主コース」「フレックスコース」等と称される）

大学をはじめ、専門学校にも設置されている場合がある。就業年数は昼間の課程と同じ場合と1年長い場合がある。国立大学では、入学金と授業料が概ね半額である。昼間働くことは入学条件でないが、一部の推薦入試では「就職の内定（意志）がある者」等の条件が付けられている場合もある。

(2) 通信教育

仕事の内容や時間、あるいは遠距離等の制約で、大学や短大等に通学できないものために開かれた制度である。卒業することで得られる学士号や資格は、通常の大学と同じものである。卒業に必要な単位の約4分の3を通信授業（レポート添削等）で受講し、全国各地で行われる科目試験により単位を修得していく。スクーリングが必要な単位もあり、実際に大学で集中的に講義を受ける必要がある場合もある。学費も15万円程度と負担が少なく、最近は主婦や退職した高齢者の入学も増えている。そのほかに衛星放送で講義を受ける「放送大学」もあり、秋田大学内に放送大学秋田学習センターが設置されている。

(3) 新聞奨学制度

大学の制度ではないが、働きながら学ぶ方法の一つである。関東や関西等の大都市の新聞販売店で新聞配達等のアルバイトをしながら進学する。大学や専門学校の入学金や授業料を新聞社が負担し、その他にも月給が支払われる。寮も完備しており、すべて自分の力で進学できるとしても良い。ただし、早朝の新聞配達や集金業務等の時間的な制約が多く、強い意志と体力がなければ成し得るものではない。詳細については各新聞社が運営する育英奨学会等のホームページを参照すること。

